

平成28年度

地域の核となる
美術館・歴史博物館支援事業

みやぎ歴史博物館「こどもプロジェクト」
洞窟壁画を体験・制作する小中学校へのアウトリーチ事業



おおむかしひとたちは、どうくつ 洞窟の壁に絵を描きました。
どんな絵をどうやって描いたのでしょうか。
どうくつ 洞窟壁画を学び、へき 壁画を描く体験を通して
おおむかしひとのこころが、へき 大昔の人たちが残した壁画のナゾに迫ります。

洞窟のように
デコボコした壁に
絵を描く体験

※多賀城市立城南小学校4年生の洞窟壁画体験教室のようす

洞窟壁画の描き方

2016年12月3日(土) **定員20名**
時間 / 13:30~ 会場 / 東北歴史博物館
住所 / 〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1
TEL / 022-368-0106

今の私たちが描く洞窟壁画

2016年12月25日(日) **定員15名**
時間 / 13:00~ 会場 / 塩竈市杉村惇美術館
住所 / 〒985-0052 宮城県塩竈市本町8番1号
TEL / 022-362-2555

LEDランタンで
洞窟壁画を
さがす体験



お申し込み・
お問い合わせ

塩竈市杉村惇美術館
SHIOGAMA SUGIMURA JUN MUSEUM OF ART

TEL : 022-362-2555
E-mail : sugimurajun-museum@shiomu.jp
申込フォームリンク <https://goo.gl/forms/Uoq8Owe14hGw4IH13>

描いて まなぶ 洞窟壁画

今から2万年以上前、それはマンモスやオオツノジカが住んでいた時代です。そんな大昔に生きていた人々は洞窟に絵を描きました。洞窟に残された絵は洞窟壁画と呼ばれ、ラスコー洞窟のように世界遺産になっているものもあります。大昔の人たちは、どんな絵をどうやって描いたのでしょうか？なぜ暗い洞窟にはいつて壁画を描いたのでしょうか？

大昔の人たちが描いた壁画を学び、今の私たちが壁画を残すとしたら何を描くのか。大昔の人たちが残した壁画のナゾに迫ります。



暗い中でドキドキの壁画さがし!
どんな動物が描かれているかな?

洞窟壁画の描き方

洞窟のように暗くした場所で壁画を発見する体験を通して、洞窟壁画発見の歴史や特徴を学びます。大昔に洞窟壁画を描いた技法や道具、絵の具の作り方を再現して壁画を描きます。

日時 平成28年12月3日(土)
13:30~15:30

会場 東北歴史博物館
研修室、実習室

定員 20名
*小学校4年生以上

参加
無料

東北歴史博物館

TOHOKU HISTORY MUSEUM

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1 TEL/022-368-0106

ホームページ <http://www.thm.pref.miyagi.jp/>

Eメールアドレス thm-service@pref.miyagi.jp

今の私たちが描く洞窟壁画

洞窟のように暗くした場所で壁画を発見する体験を通して、洞窟壁画発見の歴史や特徴を学びます。今の私たちが壁画として残すなら、塩竈の何を残したいか。宮城県出身の若手美術作家さんといっしょに壁画を描きます。

*事前に描きたいものを下絵としてもってきてください。
会場にも絵の題材になるものを用意しています。

日時 平成28年12月25日(日)
13:00~15:00

会場 塩竈市杉村惇美術館
大講堂

定員 15名
*小学生以上

参加
無料

塩竈市杉村惇美術館

SHIOGAMA SUGIMURA JUN MUSEUM OF ART

〒985-0052 宮城県塩竈市本町8番1号 TEL/022-362-2555

ホームページ <http://sugimurajun.shiomo.jp>

Eメールアドレス sugimurajun-museum@shiomo.jp

*各会場とも応募多数の場合は、
先着順になります。

- 作品制作に必要な絵の具とキャンバスはこちらで準備します。
- 制作した作品は、平成29年1月から5月の期間内に東北歴史博物館ロビーなどで展示します。

この印刷物は
再生紙を使用しています。



展覧会情報

特別企画展

写実を超えて

—— 静物学者・杉村惇 見果てぬ到達点 ——
塩竈市杉村惇美術館にて開催中

11月19日~2017年1月22日

世界遺産 クロマニヨン人が残した洞窟壁画

ラスコー展

世界を巡回する
特別展が東北歴史博物館で開催!

2017年3月25日~5月28日